

山梨県スポーツ指導者協議会

会報

第二十二号

平成24年
3月31日
発行

自ら指導の実践を

〜資格が眠ってはいないだろうか〜



会長 松野 傳

指導の資格を取得していることは、そのことに関して実力があり指導力が備わっていることが認められていることなのである。特に公認スポーツ指導者は、全国何れの地でも通用する権威ある指導資格を付与されている。それにもかかわらず、スポーツの指導を実践しないでいることは、勿体ないことである。

指導の資格を取得していかかかるといえるには、指導を必要としている人達から、指導者としての存在が認められなければならない。スポーツ指導の依頼を何もしないで待っているだけでは、指導者として認められることも指導のチャンスも、期待はできない。そのため、日頃からスポーツ関係者との接触に努め、スポーツ現場に頻繁に顔を出して話しかけ、時には仲間

に参加して視野を広め、自分の存在を知ってもらおうに心がけることが大切である。学校で外部指導者を採る場合や、総合型地域スポーツクラブで指導者を選ぶ場合に、顔見知りの人や知人の紹介のある人等、何らかの繋がりのある人に声を掛ける傾向が強いということも聴かれる。また、スポーツ現場で求める指導者の条件は、資格の有無よりも人間性を重視していること、いわゆる「信頼できる人物を優先している」ことも、心得て置かなければならない。

「公認スポーツ指導者の活用促進」ということは、

平成二十三年十二月十八日に都内のホテルニューオータニにおいて、平成二十三年度公認スポーツ指導者研修会が「動きはじめたスポーツ」をテーマに開催された。始めにプロゴルファー倉本昌弘氏から「ゴルフの過去と未来」と題した講演をいただいた。この中で、ゴルフについて多くのエピソードが語られた。ゴルフの普及について

に入っ一緒活動することも必要である。また、スポーツ関係の研修会や講習会には積極的に参加して視野を広め、自分の存在を知ってもらおうに心がけることが大切である。学校で外部指導者を採る場合や、総合型地域スポーツクラブで指導者を選ぶ場合に、顔見知りの人や知人の紹介のある人等、何らかの繋がりのある人に声を掛ける傾向が強いということも聴かれる。また、スポーツ現場で求める指導者の条件は、資格の有無よりも人間性を重視していること、いわゆる「信頼できる人物を優先している」ことも、心得て置かなければならない。

「公認スポーツ指導者全国研修会」

に参加して



峡南支部支部長 赤池 義明

平成二十三年十二月十八日に都内のホテルニューオータニにおいて、平成二十三年度公認スポーツ指導者研修会が「動きはじめたスポーツ」をテーマに開催された。始めにプロゴルファー倉本昌弘氏から「ゴルフの過去と未来」と題した講演をいただいた。この中で、ゴルフについて多くのエピソードが語られた。ゴルフの普及について

体育協会創立百周年の節目に施行された。

基本法では指導者の養成のため、系統的な養成システムにも触れ、地域における指導者を学校指導者として活用しようとも定められている。小学校で多種のスポーツを一人の教師が指導するのは厳しいと思われる。ここが一つ公認スポーツ指導者の出番として、単元毎に教えられるようになるの楽しい授業になるのではないか。この法律に期待していると締められた。

引き続き、テーマを「スポーツと復興支援」と題し、シンポジウムが行われた。シンポジストである

福島大学教授の川本和久氏、ラグビー釜石シーウエイブスゼネラルマネージャーの高橋善幸氏、NPJ石巻スポーツセンター理事長の松村善行氏が震



災に直面しながらも、被災地など通常の生活ができない所で、スポーツにより人々の感動や喜びなど普通の感覚を呼び戻し、連帯感や勇気を与えられる実例を示していただいた。非常事態時に指導員は何をすべきか、示唆に富んだ内容であった。コーディネーターの宮嶋氏が「スポーツは情熱のやりとりだ。人と人との繋がりが育てられる。今こそ私たちの行動が五年、十年先の日本につながる。本日参加の皆様方もフェアプレイ宣言に賛同頂きたい」と締められた。

外部指導者の現況と今後の活動について



組織財源部 峡中支部 (県高体連会長)

市村 一 司

外部指導者の現況と今後の活動

外部指導者の制度を取り入れている学校、また、制度を実施していなくても利用したいと考えている学校はどのくらいあるのか。学校にとつて、経済的負担がかからなければ大いに利用したい制度である。しかし、学校にとつて、見ず知らずの人が生徒の指導にあたることについては不安がある。教育的な位置づけのなかで部活動が実施されているが、外部指導者が十分それを理解しているかどうか

かが問題となってくる。当然、資格取得者よりも人となりがわかっている卒業生等を利用するパターンが多くなってくる。県の制度としても国の補助金が打ち切られ、県単独の予算で続行している状況で中高あわせて三十名程度が対象となっているだけである。制度の意義は理解されているが、予算が少ない県としては精一杯の状況になっっているようである。また、スポーツ指導者協

議会の立場からも課題がある。公認資格を取って指導する場がない人が何人いるのか。ほとんどの指導者は、自分が指導している場で資格が必要となり、時間と費用をかけて資格を取得しているのである。新規に学校現場に赴いて指導できる指導者が何人いるのか。

一方、先に述べたように、学校現場で求める指導者は教育現場で信頼を得る人物となってくる。面識のない人がその養成に込えられるのか。そのためには、スポーツ指導者協議会の組織の信頼性と研修制度の充実がキーポイントになるのではないかと思う。



学校体育における外部指導者の

現況と今後の活動



活動促進部 県小中体連理事長

菅谷 信

山梨県小中学校体育連盟では、平成二十四年度の取り組みの一つとして、「体育スポーツに関わる外部指導者に関する調査」を行った。これは、学校体育における外部からの指導協力者やゲスト講師の活用について

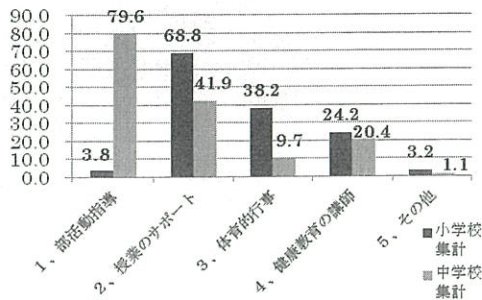


図1 外部指導者の協力場面

調査は県内小学校一八六校、中学校九三校の体育主任を対象に行った。調査した主な内容は、外部指導者の必要性はどのくらい感じているかを中心に、どのような方に、どのような場面

で小中学校の現状把握と学側のニーズを調査し、今後の外部団体・組織（県スポーツ指導者協議会）との連携について検討しようとするものであり、文科省による「スポーツ立国戦略」にもある「スポーツ・コミュニティ」の中にある学校体育の推進を積極的に図ろうとする試みの第一歩である。

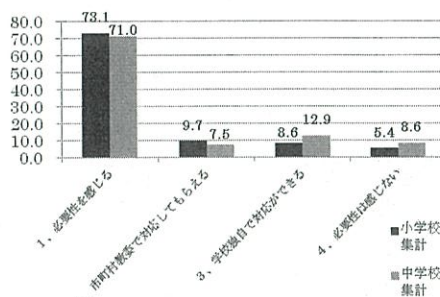


図2 外部指導者を照会する機関の必要性

で協力が必要なのか、要請する時に心配されることは何かなどである。

その結果、小中学校ですでに6割前後の学校が外部指導者を活用しており、今後活用を検討したいという学校も含めると8割以上の学校がその必要性を感じていた。小学校では、授業や陸上記録会、夏休みの水泳指導など、短期間での専門的な指導にニーズがあり、中学校では、部活動指導における長期間でのニーズが高く、学校教育と連携

研修会の報告

「山梨県スポーツ指導者協議会総会・研修会」

峡南支部 副支部長

保坂重機



平成二十三年度山梨県スポーツ指導者協議会総

を図ることができると指導者という資質の要望も強かった。また、実際に外部指導者を依頼するときにその人材確保に課題があり、七割を超える小中学校が、その照会機関の必要性を感じていた。

これを踏まえると、今後、県スポーツ指導者協議会が、地域の公認スポーツ指導者をどう育て、どう生かしていくかを見ることができよう。県小中体連では、これからも協議会との連携を深めながら、学校現場に即した外部指導者とはどのようなものかをさらに追究していきたいと考えている。

会・研修会は、五月二十一日（土）午後一時から小瀬スポーツ公園武道館アリーナに於て開いた。今回は二五〇余名という多くの指導者が参集し、総会では本協議会の活動内容を協議し、四名の功労表彰を行った。研修会の講演は、藤原三郎先生（県立中央病院整形外科医、スポーツドク



ター)のトレーニングの科学(障害予防)を拝聴した。スポーツ選手の治療を多く手がけている先生は、具体例を示してスポーツ障害の発生要因、予防対策などわかりやすく話された。

続いて実技では、鈴木 先生(ピラティスマスタートレーナー)によ



る「スポーツ・ピラティス」を、ステージの先生の動きを見、説明を聴きながら約六〇分勉強した。

ほとんどの参加者が初めての体験だったので、「ヨガプラスストレッチ」に興味・苦痛を体感しつつ汗を流した。参加者は今日の研修をこれからの指導に生かしたい。と願い散会した。



「スポーツ指導者 研修会に参加して」

山梨クインビーズバスケット
ボールクラブ 監督・ヘッド
コーチ

炭田久美子



平成二十三年度第二回山梨県スポーツ指導者研修会に指導員として参加した。テーマは「スポーツ指導者の指導における話し方」と「スポーツにおける準備運動」の二項目であった。

前半はプロのアナウンサー様によるお話しでいろいろな視点からであったが、私には大変参考になりました。今後に生かせる講義であった。選手に、又はチームスタッフに伝える言葉の使い方、インパクトの強さ等々、言葉を宝にして使わなければならぬと強く感じた。又、次の講義はヨガの先生からの実技指導で、トレーニング自体は短い時間であったが、初めて体験するヨガに自然に入りこめた。というのには指導者の指導力のすばらしさなのだと思

う。今回の研修会で指導するとすることは、常に内容を中味をいかに伝えられるか、そのことがとても重要であると勉強できた。

物の言い方、指導すること、常に相手にどれだけ理解してもらえるか、だと思

う。

自己満足、又取り巻く環境に甘えることなく指導者は常に努力することである。

改めて強く実感出来た研修会であり、これからは生かして行きたいと思う。

「第三回山梨県スポーツ 指導者研修会」

東山梨支部 支部長

中 村 実



平成二十三年十二月十日

(土)に三支部(甲府・笛吹・東山梨)合同で、第三回指導者研修会を行った。

今回は、各支部役員のご協力で、計七十五名と大勢の参加があった。

今回の研修会は、プロスポーツ選手が最近取り組み、成果を出している話題の「体幹トレーニング」について、山梨大学准教授で医学博士でもある「小山勝弘先生」をお願いして、「体幹トレーニングの基本と鍛え方」について講義と実技を受けた。

講義Ⅰ「体幹トレーニングの基礎」

①「体幹」Ⅱ「姿勢保持筋」
基本はトータルで考え、その軸が腹部と背部の筋群である。

②使用する筋を確実に意識する。

③動きは「関節運動」であり、起始部と停止部を知ると、使用筋への意識が

向上する。

④静的トレーニングと動的トレーニングを併用する。

⑤動的トレーニングは、伸張と収縮が大切である。

⑥身近な体幹トレーニングを活用する。等、興味深い講義だった。

講義Ⅱ実技では、講義Ⅰを受けて身近で出来る筋肉各部の鍛え方について行われた。

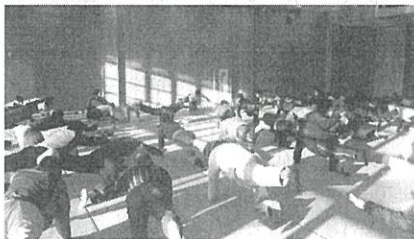
講義の終わりには、小山先生を囲むように質問がされ、丁寧に解答を頂き有意義な時間となった。

研究協議は、山梨県における総合型地域スポーツク

ラブの設立状況や設立母体が何であるか等、説明を行った。

また、スポーツ基本法の中に謳われている地域スポーツクラブの定義について質問され、総合型地域スポーツクラブに限定するものでなく、地域の一般社会人チーム・サークルや他団体・スポーツも含まれる事が説明された。

最後に、次期開催支部である甲府支部の渡辺徳之支部長により閉会の言葉を頂き指導者研修会が盛大の内にと終了した。



山梨県スポーツフェスティバルに協力



H22年度活動内容

公認スポーツ指導者表彰を受賞して

なぎなたと私

土橋 上子

(なぎなた指導員)



と子育ての時期で夜の稽古は大変だったが家族の理解と多くの仲間を支えられ切磋・琢磨し、自身を磨くべく努めてきた。

その後スポーツ少年団も誕生し、保育園から中学生までの団体が結成され、指導者の一人として指導に

当った。技を磨き上げた子供達は県の大会、さらに全国大会として東京の武道館に於て、全日本少年少女武道錬成大会にも出場、上位入賞へと実力を発揮してきた事から、今でも毎年出場するなどの基礎を築き上げてきた。

少年団を卒団した子供達は成人に達し、県内、町内に就職している。その子供達が今では、少年団の練習所で先輩として指導の手助けをしてくれ、とても頼もしい限りである。なぎなたは後輩達への良き懸け橋となる重要で素晴らしいものであると痛感している。

私がなぎなた競技に出合ったのは、昭和六十一年「かいじ国体」のなぎなた会場が旧下部町に決った時からです。町をあげて取り組む中で、なぎなたという競技に興味があり、競技役員養成の為稽古に励み、役員として大成功を収めることが出来た。国体終了後も稽古は続けてきた。仕事

今後少年団の若いパワーと大勢の皆様の熱意を糧に共に力添え頂だいて精進して行こうと思っっている。

受賞に際し東京まで引卒して下さった赤池支部長には心から感謝したい。ありがとうございました。

地域指導者として

考えること

四 條 勉

(陸上指導員、スポーツプログラマー)



時間がたった。南巨摩支部の理事や事務局長を続けるなかで、活動の活性化に苦慮した時期もあったが、西八代支部との統合が円滑に進み、峡南支部となった今、支部の一員としての役割、指導者個人としての役割は何かをよく考える。

平成十三年か十四年頃だったと思うが、総合型地域スポーツクラブの設置について県外から講師を招いて講演会が開かれた折、「なぜ山梨では、総合型地域スポーツクラブの設置が進まないのでしょうか？」と講師に尋ねたことがある。単純明快に「住民のニーズがない」と答えが返ってきたことを覚えている。

平成二十三年十二月、日本体育協会より、公認スポーツ指導者表彰を受けた。平成六年、支部設立準備会の参加から、ずいぶん

身体を動かされている方は多いように感じる。

健康志向や維持に、興味関心のある人は誰に言われなくても、その環境を見つけたら、作り出すこともできるが、興味関心のない人にはどう働きかけるのか。過疎化、高齢化を頭に入れながら、陸上指導員やスポーツプログラマーという資格をもうしばらく地域のために活かしていきたいと思う。

公認スポーツ指導者

表彰を受賞して

土屋 義 仁

(山梨県ウエイトリフティング協会副会長)



この度は、日本体育協会創立百周年にあたる年、

今、町の体育館では、身体を動かす若い方たちの姿もあるし、ジョギングやウォーキングをする人たちも多い。クラブはなくとも、

平成二十三年度公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者表彰を受賞する栄に浴し、推薦をいただいた県体協、笛吹市スポーツ指導者協議会、関係する皆様方に深く感謝申し上げます。

今から四十八年前、東京オリンピックで三宅義信選手が金メダルを獲得した翌年、山梨県に初めてウエイトリフティング協会が設立された。

昭和四十一年インターハイが青森県黒石市で開催され、県協会設立から初めて三年生の夏、出場したのが私の山梨県ウエイトリフティング協会での活動の始まりであった。

当時法政大学生の古屋真喜選手（一宮町出身）が山梨県に協会が無い為他県から国体に出場し、新潟国体開会式で日川高校時代の恩師村田一郎先生（先生は多分相撲の選手）と再会し是非山梨県にウエイ

トリフティング協会を設立して欲しいと懇願した。

村田先生は教え子の夢を叶うべく奔走し、金も無い、器具も無い、選手役員も居ない中から、昭和四十年五月山梨県体育協会、日本ウエイトリフティング協会へ加盟申請しスタートとなった。

昭和六十一年「かいじ国体」前は未普及競技の一つとして山梨県、県体育協会から多大な応援をいただき選手強化に務めてきた。

昭和五十一年の佐賀国体で初めて国体四位となり、「かいじ国体」前年、鳥取で協会設立二十年目にして初めて競技別優勝を飾る事が出来た。

以来日本一の指導者に恵まれ五度の競技別優勝と奈良国体以来二十八年連続で入賞を続けられる競技団体に成長する事が出来た。

これまで多くの皆様方より応援をいただきオリ

ンピック選手の輩出の夢を追いかけ、国体三十年連続入賞をめざし競技力の向上に微力ではありますが努力していきたくと考えている。



公認スポーツ指導者表彰を受賞して

磯野 澄也

(山岳上級指導員)



県体育協会の推薦を頂き「私が」の戸惑いもあったが、ホテルニューオータニでの受賞式では歩んできた

人生を振り返り感慨深いものがあつた。

仕事は建築、趣味は山岳で共に二刀流で高校時代から歩み始めて四十年を超えた。東京の建設会社就職後も社会人山岳会に入会し、休日は趣味に切り替え両輪で進めた。始めは仕事のウエイトが大きかったものの次第に趣味が逆転し、兄の他界もあり昭和五十三年ヒマラヤ登山遠征により退職、帰国後山梨にＵターンした。

山はやめようと思つていたが山梨には姉妹山岳会があり、「かいじ国体」の準備が始まる頃でまたブルズルと続けてしまった。国体では山岳登攀競技を担当し、これを契機に山岳指導員、国体審判員等の資格を取得した。地元西八代スポーツ指導者協議会に入会し毛無山登山を実施したところ、好評で結果的に峡南地方を中心に各種指導員及び関係者を対象に毎年実施

し現在に至っている。この他、地元集落の公民館活動また児童養護施設の子供達を毎年、山へ案内している。登山は他のスポーツに比べ危険性が付き物で、事前に調査偵察する等万全な準備が要求される。登山には全体で感ずるドラマがあり、参加者の笑顔・喜びの感動を見ると苦労は消えてしまう。

山梨県山岳連盟内では自然保護を担当し、希少高山植物の調査活動・自然保護に関する研究を行っているが、山梨の大切な自然を後世へ継承するべき一助としていきたい。



平成23年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告

年	月日(曜日)	事業名	会場等
平成23年	4月2日(土)	〈協力事業〉山梨県スポーツ少年団フェスティバル	山梨中銀スタジアム 他
	4月9日(土)	第1回執行部会議	小瀬スポーツ公園管理棟会議室
	4月27日(水)	第1回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	5月11日(水)	平成22年度会計監査	小瀬スポーツ公園管理事務所会議室
	5月21日(土)	平成23年度山梨県スポーツ指導者協議会総会・山梨県スポーツ指導者研修会	小瀬スポーツ公園武道館・アリーナ
	6月3日(金)	第2回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第2会議室
	6月15日(水)	第2回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	11月18日(金)	第3回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	11月30日(水)	第3回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	12月17日(土)	平成23年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
	12月18日(日)	平成23年度公認スポーツ指導者等表彰式・全国研修会	東京都
平成24年	2月10日(金)	第4回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	2月16日(木)	第4回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	3月31日(土)	会報第22号発刊	

平成24年度山梨県スポーツ指導者協議会事業計画

年	月日(曜日)	事業名	会場等
平成24年	4月7日(土)	〈協力事業〉山梨県スポーツ少年団フェスティバル	山梨中銀スタジアム 他
	4月20日(金)	第1回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第2会議室
	4月25日(水)	第1回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	5月11日(金)	平成23年度会計監査	小瀬スポーツ公園管理事務所会議室
	5月19日(土)	平成24年度山梨県スポーツ指導者協議会総会・山梨県スポーツ指導者研修会	小瀬スポーツ公園武道館・アリーナ
	6月15日(金)	第2回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第2会議室
	6月20日(水)	第2回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	11月16日(金)	第3回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第2会議室
	11月21日(水)	第3回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	12月15日(土)頃	平成24年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
	12月16日(日)頃	平成24年度公認スポーツ指導者等表彰式・全国研修会	東京都
平成25年	2月15日(金)	第4回執行部会議	小瀬スポーツ公園武道館第2会議室
	2月20日(水)	第4回理事会	小瀬スポーツ公園武道館第1会議室
	3月29日(金)	会報第23号発刊	

発行元
山梨県スポーツ指導者協議会
事務局

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町840
財団法人山梨県体育協会内
TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599

あ
と
が
き

本協議会も、いよいよ新しい段階に踏み出そうとしています。これからは、指導者の皆様との連携で、皆様が活躍ができる組織となっていくことと期待しています。この会報も、皆様との窓口になればと期待しています。

編集：広報普及部